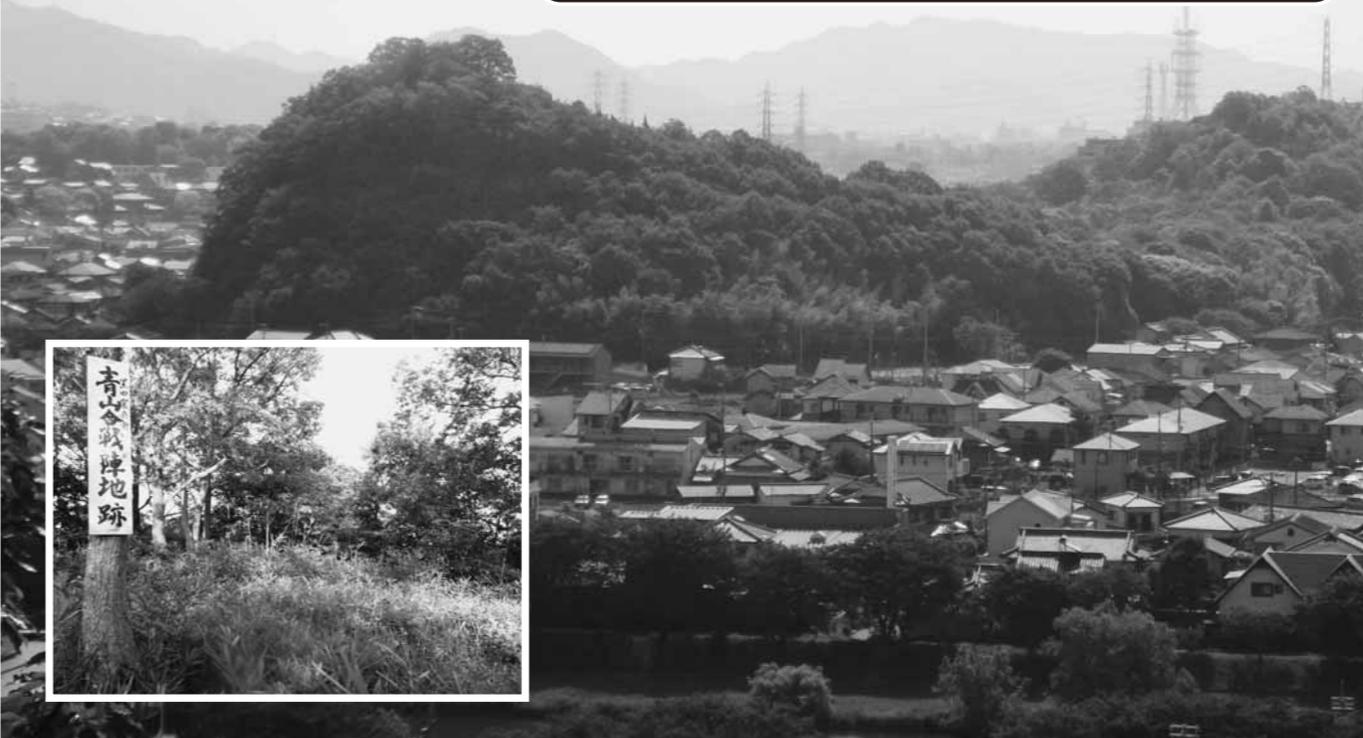


文化財をたずねて

黒田家・官兵衛ゆかりの地 (姫路市西部)めぐり



姫路市西部は、永禄十二年(一五六九)官兵衛が初めて大きな戦いに挑んだ青山合戦から、天正八年(一五八〇)秀吉の英賀・長水城攻めによって播磨が平定されるまでの地が多い。織田氏の中国攻めの前哨戦である播磨の戦いは、別所氏・小寺氏らの相次ぐ叛旗によって混迷を極め、多くの地が戦火に見舞われた。姫路市西部には当時の古戦場や城・構居・寺院跡等が多く残っており、若き日の官兵衛や秀吉の播磨平定戦に思いを馳せることができる。

① 峰相山鶏足寺跡 (伊勢・峰相)

鶏足寺は峰相山(標高三三九・七m)の南腹に位置する山岳寺院で、新羅の王子の創建。金堂・講堂・法華堂・五大尊堂・鐘楼・五重塔・三重塔・宝蔵・僧坊など三百余の建物があったとされる(『峰相記』)。天正六年(一五七八)峰相山鶏足寺の宗徒が秀吉に叛いて蜂起したため、秀吉は黒田官兵衛に命じ、これを伐たせた。官兵衛は太市郷民を誘い、八月十日同寺に攻め寄せ、坊舎を破却した(『姫路城史』)。現地は「石倉峰相の里」、「太陽公園」横の東洋大姫路野球グラウンド、上伊勢(伊勢小学校横)からの「山陽自然歩道」から登れ、現在、礎石・五輪塔・石垣跡が残されている。『太市村誌』にも「(鶏足寺は)羽柴家二叛入、天正六年八月十日太市郷民二仰せ、小寺氏ノ下知トシテ破却ス。傘二火ヲカケ坊舎ヲ焼ス」と記載され、峰相山鶏足寺が秀吉の中国攻めに抵抗、太市の郷民が坊舎に火をかけ消滅したことを伝えている。太市の破警神社では、毎年八月十五日に厄年の氏子らが本殿前の舞殿で松明を床にたたきつけ合う祭り「奉点燈祭」が行われているが、峰相山鶏足寺の衆徒らに供養するために始まったと言われている。

② 十地坊跡 (書写)

『信長公記』に、天正六年(一五七八)羽柴秀吉が加古川の賀須屋(糟谷)の城から書写山に居陣し播磨攻略の拠点にしていたと記述されているが、『播磨鑑』等には「白山の十地坊に入った」と具体的に述べてくる。同年、東播三木城の別所氏が蜂起すると、美作国境付近で軍事行動中だった秀吉は書写山に戻った。

この時、円教寺は三千石の兵糧米を提供するなど寺の保護に努めていたにもかかわらず、秀吉の軍勢は三月六日、山内の坊舎仏閣を破壊し「老若上下方々馳散」する状況に陥ったという(『播州書写山円教寺古今略記』)。十地坊は大講堂の横手から白山権現に向かう途上であり、標高三六〇m級の書写山で最も高い峰に位置している。その下には摩尼殿や大講堂などの円教寺の主要伽藍が広がっていることから、戦乱に備えて書写山円教寺も立て籠もることのできる城郭を築いていたのかもしれない。

③ 土器山 (下手野)

永禄十二年(一五六九)八月九日、龍野城主赤松政秀が三千の兵を率い姫路西方の青山まで攻め寄せた。その時、官兵衛は姫路城で政秀軍を迎えるのは不利と考え、「播州土器山にて対陣した」(『黒田家譜』)。土器山は現在の秩父山に比定され、「今宿手野の間、国道の北なる小連峰をいふ、標高五十五米也」(『飾磨郡誌』)。「播州続古処拾考」には「下手野村北山を瓦山といふ八青山堂をたてし時、瓦をやきしと云」とあり、地元では、かつて山名宗全が青山に寺を建てた時、ここで瓦を焼いたので「瓦山」と伝わる。「姫路城史」には「かわらやま」「かわらけやま」音が近い。おそらくこれを誤って「土器山」と記したのでないか」と書かれている。「土器山」の陣跡は下手野の船越神社から階段を上り、金比羅社の横道を上ったところにある。山上から見ると、龍野勢の攻め口(桜峠)と姫路城とがほぼ一直線上にあることが実感できる。

④ 青山古戦場 (青山)

永禄十二年(一五六九)八月九日、龍野勢は夜陰に乗じて土器山を襲撃、この戦いで官兵衛は母里氏らをはじめ多くの家臣を失った。明日はもっと多くの犠牲者を出すと思った官兵衛は相手の油断を突く作戦に打って出た。黒田軍は小丸山(現在の青山西五丁目北側の住宅団地と青山ゴルフ場付近)に着陣していた赤松政秀軍の背後をつき、また英賀の三木通秋軍の加勢もあって龍野勢を混乱に陥れ大いにこれを破ったという。この戦いの跡が「千石池」と「小丸山」で、今も政秀軍が逃げたという抜け道が残り、「千石池」は人の首が落ちたという言い伝えで「戦国池」と呼び名が転じたという言い伝えがある。この「青山合戦」は三木の別所軍と龍野の赤松政秀軍が呼応して小寺政職の御着城を攻めようとした戦いである。

⑤ 英賀神社に残る土塁跡 (飾磨区英賀宮町二丁目)

英賀は夢前川の河口近く、東西に連なる砂州の帯上にあり、北は後背湿地、西に夢前川、東に水尾川に囲まれ、その周囲に土塁が築かれていた。もともと村全体を水害から守るために築かれたであろうが、英賀にはかつて港をもつ市場が形成され、そこへ本徳寺(英賀御堂)などの真宗寺院が建てられてから「寺内町」としての性格をもつところとなった。土塁はその「寺内町」を守るように連なり、一〇の出入り口が設けられていた。従来、英賀城を紹介する文献の多くは英賀全体を取り囲む土塁の内側を英賀城としてきたが、『播磨鑑』には「英賀城」と「英賀村古城跡」と区別した表記がなされている。証如上人の『天文日記』にも「英賀三ヶ村」と記されており、英賀は明蓮寺を中心とする集落、英賀神社を中心とする集落、中浜町周辺の集落から成り立っていたことが分かる。現在、土塁が残っているのは英賀薬師(英賀東町一丁目)の北側と英賀神社本殿裏のみである。本殿横に司馬達太郎の『播磨灘物語』文学碑が建てられている。

⑥ 英賀城本丸跡碑 (飾磨区中浜町二丁目)

中浜町二丁目の辺りを字「城内」といい、かつて「英賀城」と言われる城郭施設が建っていた。『英城日記』によると、英賀城主は讃岐三木郡を領した伊予河野氏の一族で、応永(一三九四〜一四二七)の頃、細川氏のために讃岐を追われ、赤松氏を頼って播磨に来た。はじめ松原郷恋浜に居住したが、嘉吉の乱(一四四一)後、英賀に移って、天正八年(一五八〇)羽柴秀吉の攻撃を受けて滅ぶまで九代百四十年間、その地位を世襲したとある。『天文日記』によると、「英賀村三方村」は六人の「長衆」や十一人の「中老衆」による自治が行われ、その長衆の一人が本徳寺(英賀御堂)を開創した中心人物で、英賀城落城時の三木通秋の先祖ではないかとされる。「英賀城本丸」が建っていた字「城内」は周囲の低湿地だった所より一メートルほど高くなっており、一丁目と二丁目の境界となっている水路が堀跡と考えられている。

⑦ 明蓮寺境内「英賀本徳寺跡」碑 (飾磨区英賀西町二丁目)

十五世紀後期、本願寺祐全が英賀で道場を建て、永正十二年(一五一一)本願寺蓮如上人の弟子空善によって本徳寺(英賀御堂)が建立された。蓮如上人の孫実玄が初代住持につき、英賀は播磨における一向宗の拠点となった。やがて信長と大坂本願寺が戦火を交えるようになると、英賀から本願寺へ兵糧が運び込まれ、英賀は本願寺と結んだ毛利水軍の中継基地となった。信長配下の秀吉にとつて英賀は重大な攻撃目標となり、天正八年(一五八〇)四月二十六日に落城。その二年後、本徳寺は秀吉より三百石の寺領の寄進を受け亀山に堂宇を遷された。これが現在の亀山本徳寺である。かつて英賀本徳寺のあった所に、昭和三年(一九二八)日本製鐵広畑製鉄所建設に伴う夢前川の河川付け替えて河川敷となったため、碑は明蓮寺境内に移された。

⑧ 山崎構居跡 (英賀保)

『播磨鑑』によると、英賀三木家の一族山崎惣右衛門の守るところであったが、天正八年(一五八〇)羽柴秀吉は英賀攻略にあたって、弟秀長を遣り山崎山に陣を敷かせた。この時、惣右衛門は武勇を尽くすも大勢に囲まれ討死にたとされる。この時、圧倒的な軍勢で短期間に攻め立てたのであろう、ここには城跡らしきものが残っておらず、「長さ十四間横六間、陣小屋を掛」とある(『播州古城跡集』)。現在、山崎山の麓にある亀山本徳寺廟所から登ることができ、山頂は水源地になっている。東南部斜面の削平地に城跡の碑が建っている。

⑨ 町坪構居跡 (荒川)

英賀城三木氏の支城で、東西二十八間、南北二十六間の平城であった(『播磨鑑』)。領主は町ノ坪彈四郎主水佐で、英賀の幕下であったが戦鬪で武功を挙げると討死し、その後、黒田兵庫頭(利高力)が守ったという。「飾磨郡誌」に「町坪合戦」として、天正八年(一五八〇)黒田官兵衛が攻略し、井口猪之助と三宅藤十郎に預けたが、夜襲を受け、井口が勇戦したが、敵前にて腹を切った話が載っている。当時、町坪構居は「用害(要害)」と認識されており、「土居ノ内」という字名が残っている。本丸跡を中心に堀跡と見られる水路が残ると共に、構居の北東約一五〇メートル離れた所の「茶園堀」は堀跡と言われ、南西隅に五輪塔群が残っている。地元では天正八年(一五八〇)の合戦で討ち死にした町坪彈四郎一統の埋骨・立塔の跡と言われ、今も八月三十一日に供養が行われている。

⑩ 仏日山法輪寺 (「茶くれん寺」)

臨済宗妙心寺派、本尊は行基作と伝えられる薬師如来。開創は平安時代と推定され、鎌倉時代には海石山晦蓮寺と称する天台寺院であったといわれる。『播磨鑑』には、宝林寺と書き赤松則祐の建立で寺領五十石、赤穂郡の宝林寺より雪溪和尚が移り住み禪寺になったとある。嘉吉の乱(一四四一)後、英賀の三木氏の崇敬を受け、寺領を安堵される。天正八年(一五八〇)、羽柴秀吉が英賀城攻めの途次、平服で当寺に立ち寄り茶を所望したが、秀吉とわからず白湯を出したので、秀吉から「湯沢山茶くれん寺」の寺号が与えられた伝承が残る。江戸時代に入り、妙心寺派仏日山法輪寺と改称したという。朱印地九石・山竹林木諸役免除、九通の朱印状が残っている。また、平成二十五年年度には、秀吉の腰掛石が榎の木の下に再現された。

コース案内

【英賀コース】

■起点 山陽電鉄西飾磨駅(三三八〇m)→英賀城本丸跡碑(五五〇m)→英賀薬師堂(九〇〇m)→英賀神社・英賀城跡公園(六八〇m)→明蓮寺(英賀本徳寺跡碑)(六〇〇m)→終点 山陽電鉄夢前川駅

【青山コース】

■起点 J R播磨高岡駅(二二km)→土器山・青山合戦陣地跡(一・五km)→稲岡神社(二・六〇m)→宗全寺跡(一・四km)→青山古戦場跡(三・五〇m)→終点 神姫バス「青山坂下」停留場

表紙写真 土器山

平成二十六年六月発行

姫路市教育委員会

姫路市文化財保護協会

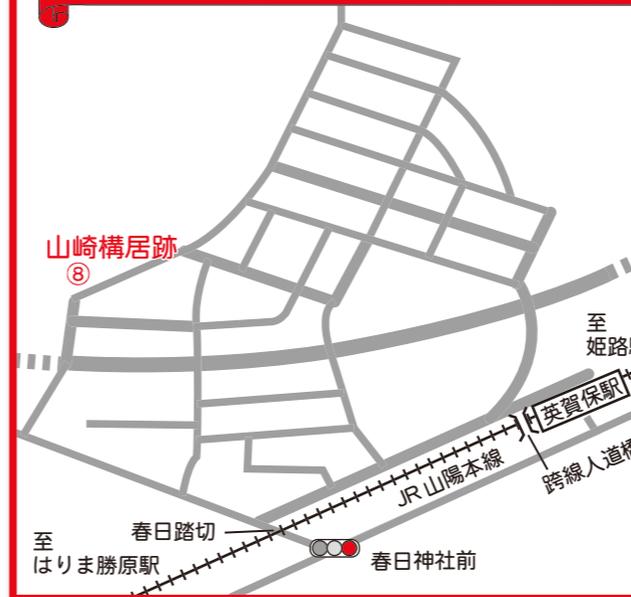
青山ルートマップ

JR 播磨高岡駅からバス停「青山坂下」までのルート



山崎構居跡

JR 英賀保駅からの見取り図



荒川

仏日山法輪寺
町坪構居跡五輪塔

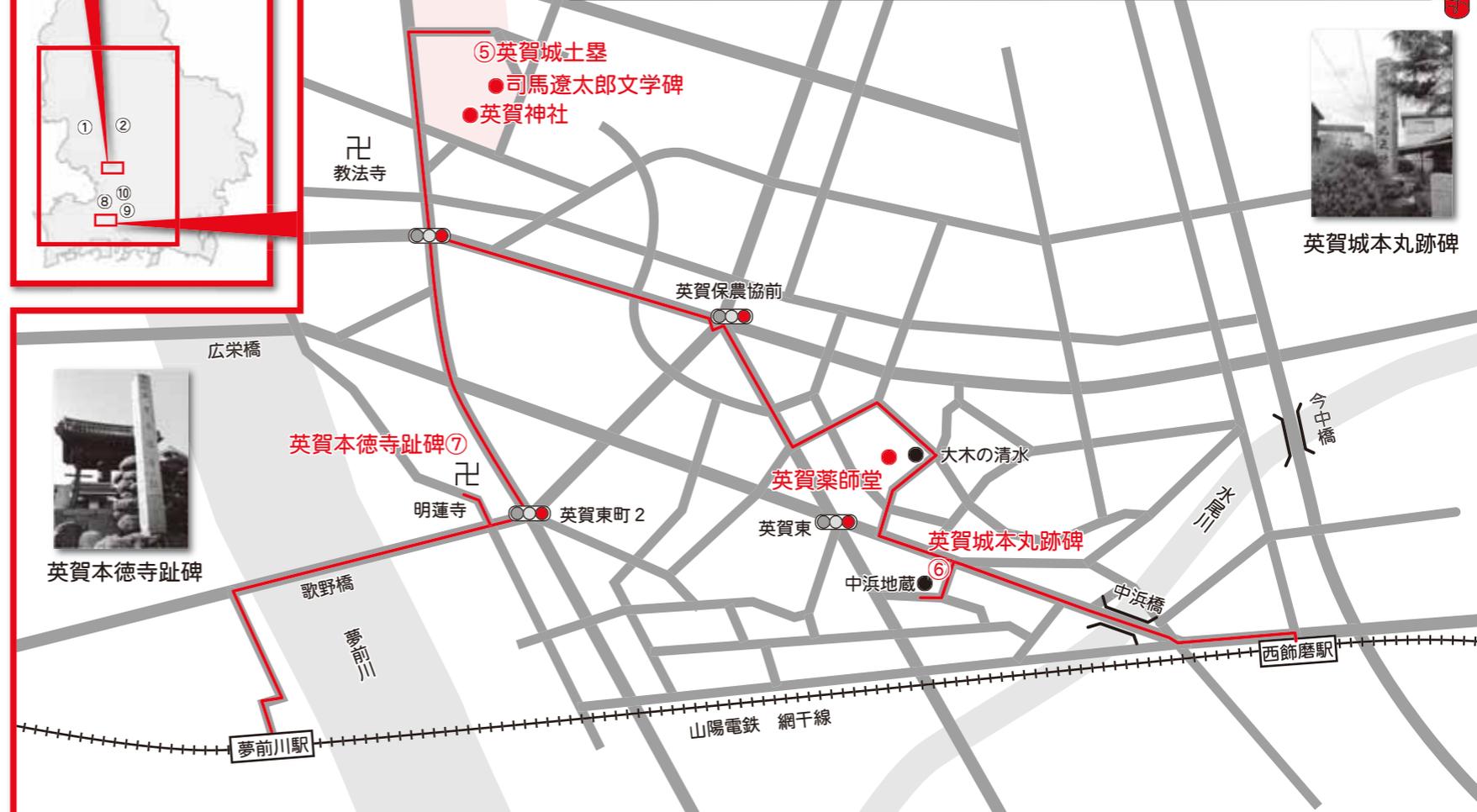


峰相山鶏足寺跡

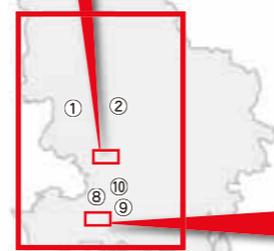


英賀ルートマップ

山陽電鉄
西飾磨駅→夢前川駅 コース



英賀城本丸跡碑



英賀本徳寺趾碑